



Givery, Inc.

HANDS-ON DAY 1 ・ 2026 年 5 月 版

# ハンズオンガイド Day 1

要件を言語化し、基礎版を動かす

---

提供	Givery 株式会社
研修日程	Day 1: 2026 年 5 月 26 日 (火) / Day 2: 2026 年 6 月 2 日 (火)
時間	13:00 ~ 17:00 (4 時間)
題材	CSV 可視化ダッシュボード

---

Day 1 のタイムテーブルと、4 本の Exercise の進め方を 1 冊にまとめています。

## SECTION 01

# Day 1 の俯瞰

項目	内容
日時	2026年5月26日(火) 13:00-17:00
テーマ	要件を言語化し、CSV可視化ダッシュボードの基礎版を動かす
持ち物	事前セットアップ完了済みのノートPC、ヘッドセット
配布フォルダ	epsn-handson_受講者用.zip を解凍したもの

## SECTION 02

# タイムテーブル

時間	セッション	形式
13:00-13:20 [20min]	オープニング・進め方の確認	講義
13:20-14:00 [40min]	要件を言語化する技術	講義+小演習
14:00-14:30 [30min]	Exercise 1: ジョブ・ペインの記述	ハンズオン
14:30-14:40 [10min]	休憩	-
14:40-15:20 [40min]	Exercise 2: ChatGPT で要件整理	ハンズオン
15:20-16:10 [50min]	Exercise 3: 画面詳細仕様書の作成	ハンズオン
16:10-16:20 [10min]	休憩	-
16:20-16:55 [35min]	Exercise 4: Codex で基礎版を生成	ハンズオン
16:55-17:00 [5min]	クロージング	対話

## SECTION 03

# 講義：要件を言語化する技術(13:20-14:00)

## 要件の3層

層	何を決めるか	例
業務要件	何のためのシステムか	売上の月次レビューを1画面で完結する
利用要件	誰がどう使うか	営業企画が月初にCSVをアップして5分で確認
機能要件	どんな機能が必要か	CSVアップ、グラフ表示、統計量、ベンダー説明資料

## ジョブ理論とペイン分析

- ジョブ・ストーリー:「誰が、どのような状況で、何を達成するために、このツールを使う」を1文で書く
- ペインは3分類:機能的(業務効率)／社会的(関係性)／感情的(精神的負担)

## 言語化の基準

- 「使いやすい」「便利」は禁止 → 「○分以内に完了する」など測れる言葉に置き換える
- 誰が読んでも同じ解釈になるか自問する
- 抽象的な強調語(非常に・本質的に)を使わない

## SECTION 04

# Exercise 1: ジョブ・ペインの記述 (30 min)

## ゴール

「誰が」「どのような状況で」「何を達成するために」CSV 可視化ダッシュボードを使うのか、自分の言葉で 1 ページに書ききる。

## 終了条件

- ジョブ・ストーリーが 1 文で書けている
- ペインが「機能的」「社会的」「感情的」の 3 分類でそれぞれ 1~3 個書けている
- 「使いやすい」「便利」のような曖昧語が使われていない

## やること

1. docs/requirements\_template.md を VSCode で開く
2. 自分の業務で実在する場面を 1 つ選び、ジョブとペインを記入する
3. ペインは 3 分類で書く。書きにくいものは ChatGPT に「以下のテーマで機能的／社会的／感情的ペインを 3 つずつ挙げてください」と相談しても OK。出てきた候補は **必ず自分の言葉に書き直す**
4. テキストファイル output/requirements.md に保存する

## 観察ポイント

ジョブとペインが具体的であるほど、後の Exercise で AI から得られる出力の質が上がります。ここの粒度が研修全体のクオリティを決めます。

## SECTION 05

# Exercise 2: ChatGPT で要件整理 (40 min)

## ゴール

Exercise 1 のジョブ・ペインを土台に、ChatGPT に要件整理シートのたたき台を作らせ、業務実態と照らして自分の手で修正する。

## 終了条件

- `output/requirements.md` に「ジョブ」「ペイン」「やること」「やらないこと」「必要な画面と機能」「評価指標」が埋まっている
- ChatGPT の出力をそのまま貼り付けただけの箇所が **ゼロ**
- 不要に抽象的な表現が消えている

## プロンプト例

あなたは B2B SaaS のプロダクトマネージャーです。  
以下のジョブとペインから、Web ダッシュボードの要件整理シートを作ってください。

【ジョブ】  
[Exercise 1 で書いたジョブ・ストーリー]

【ペイン】

- 機能: [Exercise 1 で書いた機能的ペイン]
- 社会: [Exercise 1 で書いた社会的ペイン]
- 感情: [Exercise 1 で書いた感情的ペイン]

出力は以下の見出し順で、それぞれ箇条書きで。

1. このシステムの目的 (1 行)
2. やること (3~5 個)
3. やらないこと (3 個)
4. 必要な画面と各画面でできること (3~5 画面、表形式)
5. 評価指標 (このツールで達成したい状態を 2~3 個)

## 観察ポイント

ChatGPT の初稿はあくまで「たたき台」です。最強の使い方は「自分が書こうとして詰まった部分の埋め草として使う」こと。ゼロから書かせて全部任せると、後で必ず差し戻しが発生します。

## SECTION 06

# Exercise 3: 画面詳細仕様書の作成 (50 min)

## ゴール

要求整理シートを元に、Codex にコードを書かせる前段の「画面詳細仕様書」を作る。

## 終了条件

- `output/screen_spec.md` に以下が埋まっている: 画面の役割 / 表示する情報 (項目名・データ型) / ユーザーが行える操作 / 遷移先 / 制約
- データ型が「string」「number」「日付」など具体名で書かれている
- Codex に渡したらコードが生成できる粒度になっている

## プロンプト例

要件整理シートをもとに、画面詳細仕様書を 1 枚作ってください。

### 【要件整理シート】

[`output/requirements.md` の中身を貼る]

### 【出力形式】

- 画面タイトル
- 画面の役割 (1~2 行)
- 表示する情報 (項目名 / データ型 / 補足の 3 列で表形式)
- ユーザーが行える操作 (箇条書き)
- 遷移先
- 制約

これは AI に HTML プロトタイプを書かせるための設計書として使います。  
曖昧表現を避け、データ型を必ず明示してください。

## 観察ポイント

仕様書の粒度が荒いと、Codex の出力もブレます。データ型・操作・制約の 3 点を仕様書側で確定させると、AI のコード生成の出戻りが激減します。

## SECTION 07

# Exercise 4: Codex で基礎版を生成 (35 min)

## ゴール

`starter/dashboard.html` を起点に Codex と対話し、CSV を読み込んで棒グラフ 1 種類が表示される **基礎版** を完成させる。

## 終了条件

- ブラウザで `starter/dashboard.html` を開いて、`samples/sales-by-region.csv` をドラッグ&ドロップすると棒グラフが表示される
- データテーブル(先頭 10 行)が表示される
- ファイル名と行数・列数が画面に出る

## プロンプト例

このスタートファイルを起点に、CSV をドラッグ&ドロップでアップロードして棒グラフ 1 種類だけを表示するダッシュボードに仕上げてください。

仕様は `output/screen_spec.md` に書いた通りです。  
ただし今回は最低限の機能のみ実装します。

- グラフ種別の切替・統計量・軸選択は Day 2 に追加するので、今は実装不要
- 棒グラフ 1 種類、データテーブル(先頭 10 行)、ファイル情報の 3 つだけ
- 既存の CDN(PapaParse / Chart.js)を活用
- 単一ファイルで完結

## つまずいたら

- 「CSV が読み込まれない」→ Codex に「ドラッグ&ドロップ時のイベントハンドラを確認してください」
- 「グラフが描画されない」→ ブラウザの開発者ツール(F12)→ Console タブを見て、エラーメッセージを Codex に貼る
- 「画面が真っ白」→ `<script>` タグの読み込み順を確認(PapaParse → Chart.js → 本体コード)

## 観察ポイント

「動いた瞬間」が研修中の最大の体験です。動いたら必ず周囲と共有してください。Day 2 では、この基礎版に「グラフ種別切替」「軸選択 UI」「基本統計量」を順番に足していきます。

SECTION 08

## クロージング(5 min)

- 今日の Exercise で詰まったところを1つ自分の言葉でメモする
- Day 2 で重点的に確認したい部分を1つ書く

文書末尾。



AIプロトタイピング研修(エプソン販売株式会社様向け)

© Givery, Inc. All Rights Reserved.